

15歳～79歳の男女10,000人に聞く、「歯科医療に関する生活者意識調査」

こうくう

口腔環境への意識の高まり 9割が「健康を維持するうえで、歯や口の健康は欠かせない」と回答するも、

半数以上が歯科医院で定期チェックを受けていない

歯科健診の充実に向けた検討には、82%が「よいと思う」と肯定的 制度化に期待の声も

公益社団法人日本歯科医師会（所在地：東京都千代田区、会長：堀 憲郎）は、全国の15歳～79歳の男女1万人を対象に、2022年8月26日（金）から8月28日（日）まで、「歯科医療に関する一般生活者意識調査」を実施しました。

本調査は、当会の広報活動の趣旨である「歯科医療に対する国民の認知度・理解度向上」および「歯科医師や診療に対する評価・イメージの向上」のため、現状の歯科医療を取り巻く環境や生活者の意識を把握し、今後の広報展開に役立てることを目的として、2005年からほぼ隔年に実施しているもので、今回で9回目になります。同調査結果によって、以下のような実態が浮き彫りになりました。

①歯科健康意識と行動実態（P.1～2）

歯や口の健康意識は高まっているが、半数以上が、歯科医院で定期チェックを受けていない

- ◇ 92%が「健康のためにできるだけ自分の歯を残したい」、91%が「健康を維持するうえで、歯や口の健康は欠かせない」と考え、79%が「歯や口の健康を大切にしている」と回答。全身の健康維持のために、歯や口の健康意識が高まっている。
- ◇ 一方、「健康を維持するうえで、歯や口の健康は欠かせない」と思っているも、歯や口の健康と全身の健康の関係についての認知や理解は乏しいことがうかがえる結果に。また行動レベルにおいても、実際、半数以上が歯科医院で定期チェックを受けていない。

②新型コロナウイルス感染拡大と歯科受診（P.3）

受診控えは解消傾向にあるも、いまだ28%が「歯科受診が不安」。かかりつけ歯科医の存在が安心材料に

- ◇ 現状の受診状況に関して、「現在、治療中」は14%。コロナ禍に入った2020年に比べ約4ポイント上昇の結果に。また、「現在、治療も定期チェックも受けていない」は36%で、2020年に比べ約5ポイント低下。コロナによる受診控えは解消の兆しが見えつつある。
- ◇ 一方、コロナ禍での歯科受診への不安については2020年調査からは減少するも、2022年8月現在「歯科受診が不安」は28%。特に、「現在、中断中」は49%と、不安に感じている人が多い。
- ◇ 不安に感じていない人の理由は「かかりつけの歯科医を信頼しているため」（53%）、「機材や器具なども衛生面で十分に配慮されていると思うから」（32%）など。「かかりつけ歯科医」がいることが歯科受診への不安緩和になることがわかる。

③定期チェックを受けている人の健康状態、生活充実度（P.4）

歯や口の問題で日常生活に支障を来した人の8割が「もっと早く受診すればよかった」と後悔

- ◇ この1年間に歯の痛みなどで日常生活に支障を来した人は、5人に1人。そのうちの8割が、「もっと早くに治療を受ければよかった」と後悔。

定期チェックを受けている人は受けていない人に比べ、毎日の生活に充実感がある

- ◇ 定期チェックを受けている人の方が受けていない人よりも、「硬い物でも問題なく食べることができる」「左右バランスよく、きちんと噛（か）んで食べることができる」人が多い。「口臭」が気になっている人も少ない。
- ◇ 定期チェックを受けている人は「何でもおいしく食べることができる」「心身ともに健康だと思う」「質の良い睡眠がとれている」「毎日の生活が充実している」と思う人も多く、食べることでなく、生活の質そのものが高くなっていることがわかる。

④歯科健診充実に向けた検討（P.5）

歯科健診充実に向けた検討について、82%が肯定的意見

- ◇ 20代～70代の回答者の2021年度の健康診断・人間ドック受診率は51%。職場や自治体が実施する歯科健診受診率は13%。3倍以上の差。
- ◇ 歯科健診の充実に向けた検討は「よいと思う」が8割（82%）を超え、肯定的に捉えている。
- ◇ 「無料」や「どこの歯科医院でも受診できれば」「職場や学校などで受診できれば」などで、受診意向が高まるとの意見も。

調査概要 ■実施時期 2022年8月26日（金）～8月28日（日） ■調査手法 インターネット調査 ■調査対象 全国の15～79歳の男女1万人

* 本調査では、小数第2位を四捨五入しています。そのため、数字の合計が100%とならない場合があります。

日本歯科医師会からのごあいさつと総括

日本歯科医師会では、近年次々と明らかになっている「口腔の健康が全身の健康と密接に関わり、口腔健康管理の充実が健康寿命の延伸につながる」というデータを発信するとともに、歯や口腔の健康への国民の皆様の関心や理解度を把握するために、10年以上にわたり本意識調査を実施しております。これまでの本調査では「定期受診」や「かかりつけ歯科医」についてお尋ねしてまいりましたが、今回もそのような項目の調査を継続するとともに、新型コロナウイルス禍における歯科治療への意識や、口腔の健康への意識についても改めてお伺いしました。

今回の調査結果によれば、年代・性別を問わず、「健康を維持するうえで、歯や口の健康は欠かせない」「健康のためにできるだけ自分の歯を残したい」と考えている方はそれぞれ全体で90%を超える結果となり、国民の皆様の間で、口腔健康維持への意識が確実に高まっていることが確認できました。

しかしながら一方で、歯科医療機関で実際に定期チェックを受けている人は全体の半数以下ということも明らかになり、意識と行動のギャップが見える結果となりました。さらに今回の調査では、国の医療政策で示されている「歯科健診の充実に向けた具体的検討」についてもお聞きしました。その結果、80%以上が肯定的な受け止めをしており、健診の無料化や、職場や学校などで制度化されれば歯科健診への受診意識が高まるとの結果が明らかになりました。

歯科医療をご提供する側としては、国民の健康増進に寄与すべく、個人の自主的な定期チェックの重要性を継続して発信しながら、より国民の皆様にとって歯科医療を受療しやすい環境づくりに努めてまいりたいと考えています。

これからの新しい生活様式の中でも、国民の皆様の「食べる、話す、笑う」という生活の基本的な機能がしっかりと維持されるよう取り組んでまいります。



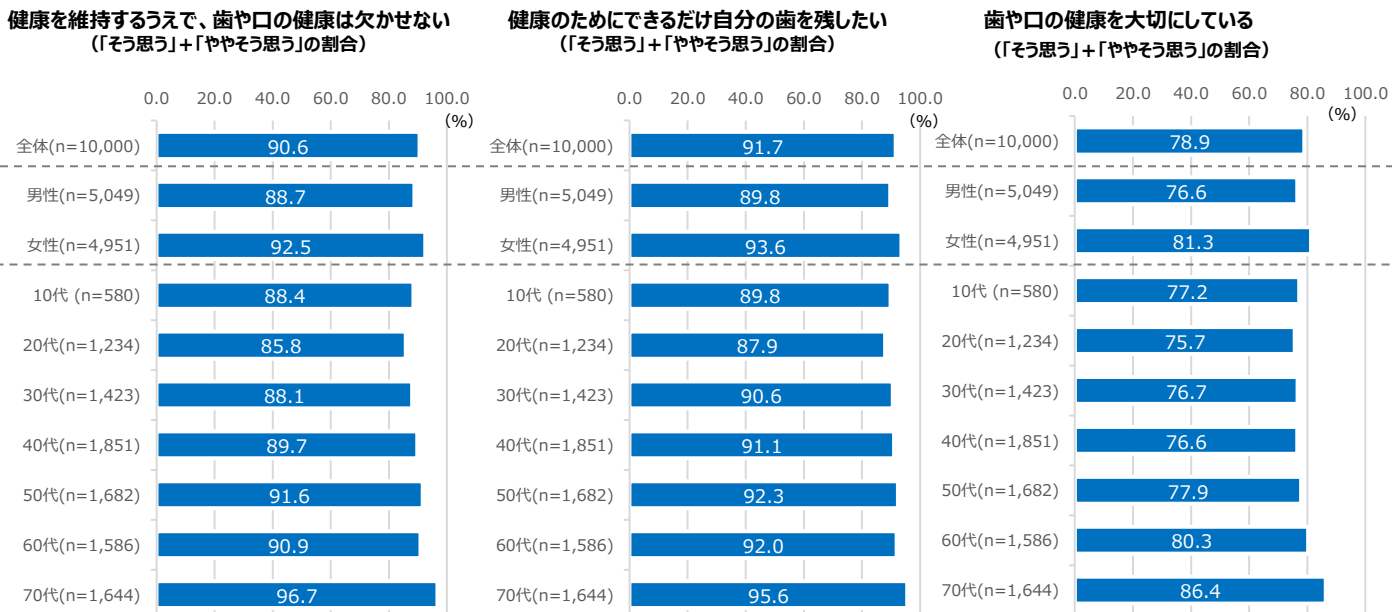
公益社団法人
日本歯科医師会
会長 堀 憲郎

■ 年代・性別を問わず高い歯科健康意識。9割以上が健康を維持するうえで、歯や口の健康が欠かせないと認識

全国の15歳～79歳の男女1万人に、体の健康と歯や口の健康に対する意識について聞いてみました。

「健康を維持するうえで、歯や口の健康は欠かせない」については、「そう思う」（46.4%）、「ややそう思う」（44.2%）と回答した人が合わせて90%に届いています。また、「健康のためにできるだけ自分の歯を残したい」と考えている人も、9割（91.7%、「そう思う」53.7%+「ややそう思う」38.0%の合計）を超えています。実際に、「歯や口の健康を大切にしている」についても、約8割が「そう思う」（「そう思う」29.4%+「ややそう思う」49.5%）と回答しています。これらの項目について年代別でみると、年齢が上昇するほど割合は高くなりますが、10代・20代でも、「そう思う」人が8割あるいは9割近くを占め、年代・性別を問わず、全身の健康を維持するうえで、歯や口の健康に対する意識は大変高くなっています【図1】。

【図1】 歯や口の健康に関する意識（全体）（n=10,000）

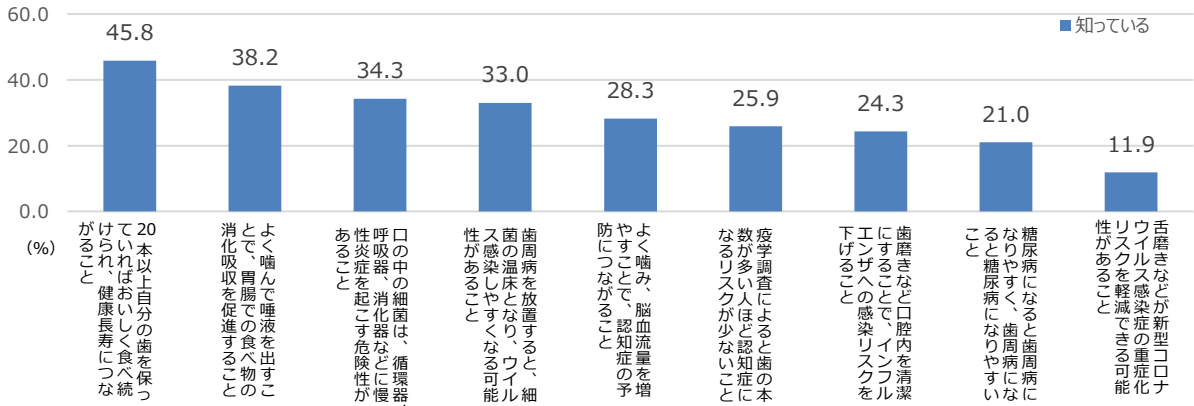


■ 一方で、歯や口の健康と全身の健康についての具体的な知識や理解は乏しい

「健康を維持するうえで、歯や口の健康は欠かせない」と思っている人に、歯と口の健康と全身の健康に関する事柄について聞いたところ、最も知られていた事柄（「20本以上自分の歯を保っていれば健康長寿につながる」と）であっても、その認知は45.8%と半数以下にとどまりました。

「口の中の細菌は循環器、呼吸器、消化器などに慢性炎症を起こす危険性がある」（34.3%）や「歯周病を放置するとウイルス感染しやすくなる可能性がある」（33.0%）ことを知っている人は3人に1人程度、「よく噛むことが認知症の予防につながる」（28.3%）や「歯の本数が多い人ほど認知症になるリスクが少ない」（25.9%）ことを知っていた人は3割以下となっています。健康維持のために歯や口の健康が欠かせないとわかっているにもかかわらず、具体的な事柄に関する知識や理解は乏しいことが明らかになりました〔図2〕。

【図2】 全身の健康と歯や口の健康に関する事柄認知（健康を維持するうえで、歯や口の健康が欠かせないと思っている人、n = 9,058）

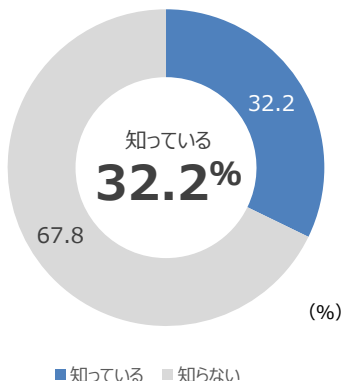


■ 歯や口の健康が欠かせないと思っても、歯科医療機関で定期チェックを受けている人は半数以下

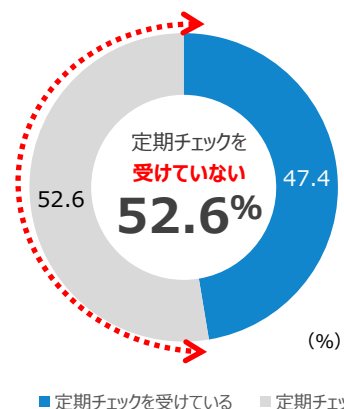
また、「毎日のセルフケアとともに、歯科医療機関で定期チェックを受けることが歯の疾患予防に重要なこと」を知っている人も3人に1人（32.2%）に過ぎず〔図3〕、実際に、「定期チェックを受けている」人は47.4%で半数以下となっています。半数以上（52.6%）が、歯科医療機関での定期チェックを受けておらず、健康への意識はあるものの行動が伴っていない実態が明らかになりました〔図4〕。

【図3】 歯科医療機関での定期チェックや受診の重要性認知
（健康を維持するうえで歯や口の健康が欠かせないと思っている人、n = 9,058）

毎日のセルフケアとともに、歯科医療機関で定期チェックを受けることが歯の疾患予防に重要なこと



【図4】 定期チェック受診状況
（健康維持するうえで歯や口の健康が欠かせないと思っている人、n = 9,058）



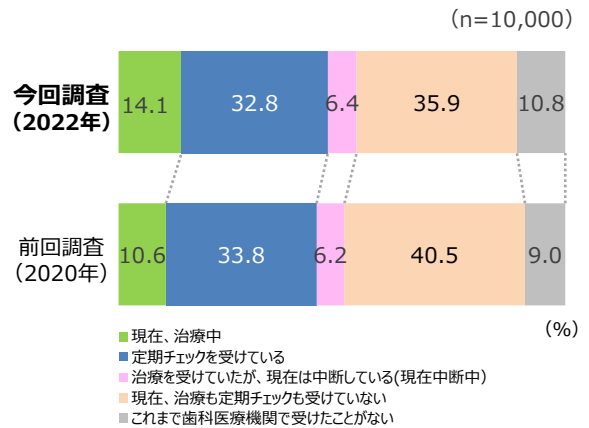
* 「定期チェックを受けている」には、「定期チェックを受けている」人に加え、「現在治療中」（図5）のうち、定期チェックを受けている人を含みます

■ 受診控えは解消傾向に

今回の調査対象者1万人の、現在の歯の治療状況を聞いたところ14.1%が「現在治療中」、32.8%が「定期チェックを受けている」、6.4%が「治療を受けていたが、現在は中断している（現在中断中）」などと回答しています。

前回調査（2020年）と比較すると、「定期チェックを受けている」に大きな変化はみられませんが、「現在治療中」が10.6%から14.1%に増加し、「現在、治療も定期チェックも受けていない」が40.5%から35.9%に減少しています。新型コロナ感染拡大による受診控えに解消の兆しが見えつつあります【図5】。

【図5】現在の歯の治療状況（2022年と2020年：全体）

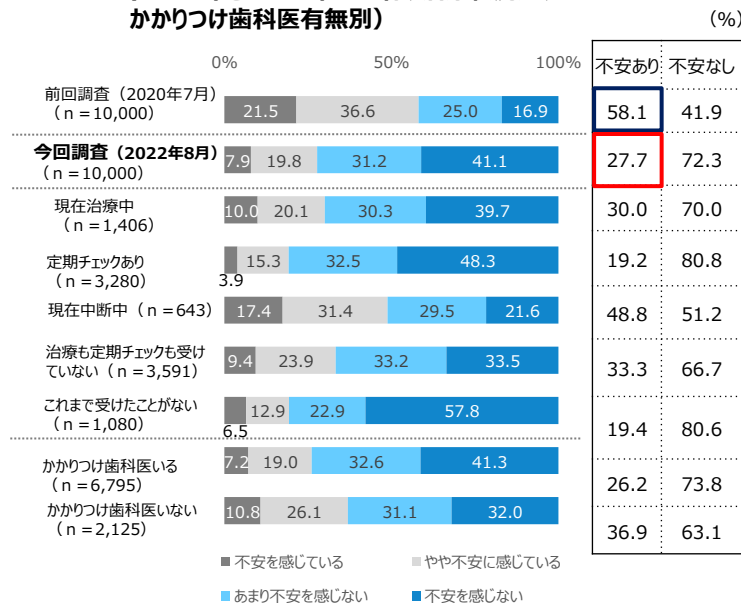


■ コロナ禍での歯科受診の不安は緩和するも、まだ28%が不安を感じている

2022年8月時点で、歯科受診・定期チェックを受けることに對して、7.9%が「不安に感じている」、19.8%が「やや不安に感じている」と答え、合わせて27.7%が不安を感じています。2020年7月時点では不安に感じている人の割合は58.1%でしたので、不安を感じる人の割合は、2020年の半分以下になっています。

治療状況別では、「現在中断中」で48.8%が不安に感じています。なお、かかりつけ歯科医がいる人のうち不安に感じている人は26.2%で、かかりつけ歯科医がいない人に比べ約10ポイントも低くなっています【図6】。

【図6】歯科受診・定期チェックを不安に感じている人の割合（2022年と2020年：全体、治療状況別、かかりつけ歯科医有無別）

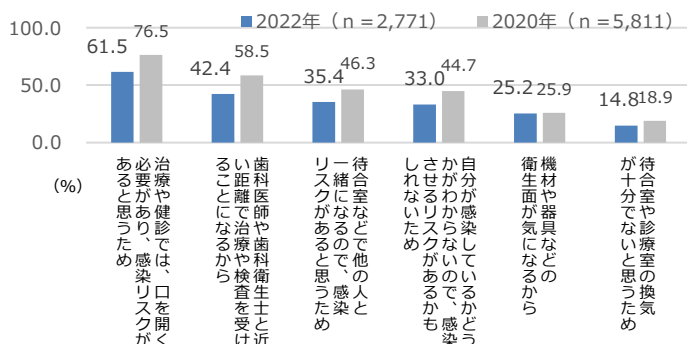


■ 「不安を感じない」理由は「かかりつけ歯科医を信頼しているため」がトップ。2020年に比べ約9ポイント上昇

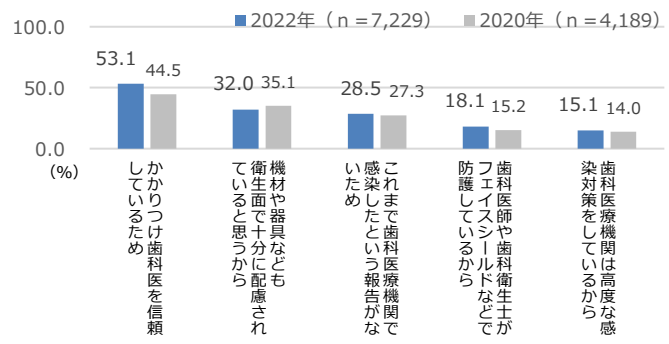
不安に感じている人にその理由を聞いたところ、2020年の調査結果と同様に、「口を開く必要があり、感染リスクがあると思う」と答えた人が最も多くみられました【図7-1】。

一方、不安に感じない人の理由は「かかりつけ歯科医を信頼しているから」が最も多くなっています。前回の44.5%から約9ポイント上昇しています。「かかりつけ歯科医」がいることが歯科受診への不安緩和につながっています【図7-2】。

【図7-1】「不安を感じる」理由（2022年、2020年：不安に感じている人）



【図7-2】「不安を感じない」理由（2022年、2020年：不安に感じない人）



■ 歯や口の問題で日常生活に支障を来した人の8割が、「もっと早く受診すればよかった」と後悔

この1年を振り返って、歯や口の問題（痛くなる、はれる、詰めものがとれる、ものがはさまる等）で、仕事や家事など日常生活に支障を来した経験を尋ねたところ、2.8%が「よくある」、14.7%が「たまにある」と答え、合わせて2割近く（17.5%）、約5人に1人が日常生活に支障を来した経験がありました【図8】。

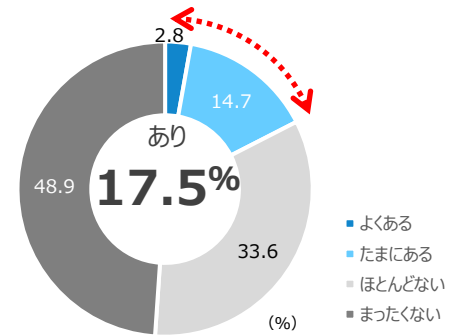
そこで、「歯の健診や治療をしておけばよかったと思うか」と聞いたところ、この1年に歯や口の問題で日常生活に支障を来した人の83.2%が、「もっと早くから歯の健診や治療をしておけばよかった」と後悔しています。日頃から、定期チェックを受けておくことが大切だということがわかります【図9】。

■ 歯の定期チェックを受けている人は、歯のトラブルがないだけでなく、毎日の生活に充実感がある

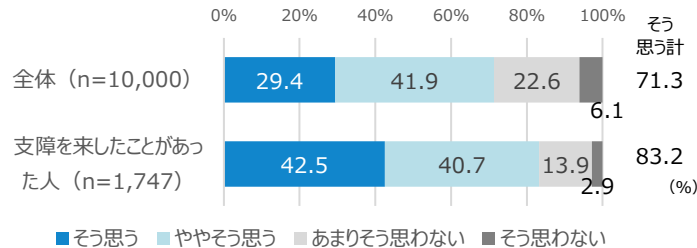
歯科医療機関で、定期チェックを受けている人と受けていない人で、噛むことなどに対する意識の違いを確認すると、定期チェックを受けている人の方が、「硬い物でも問題なく食べることができる」「左右バランスよく、きちんと噛んで食べることができる」人が多くなっています。また、「口臭」を気にしている人は、定期チェックを受けている人の方が少なくなっています。当然ながら定期チェックを受けている人の方が歯や口の健康が保たれています【図10】。

それだけでなく、「自分の健康状態に満足している」や「質の良い睡眠がとれている」「毎日の生活が充実している」と思う人の割合も多く、食べることでなく、生活の質そのものが高くなっています【図11】。

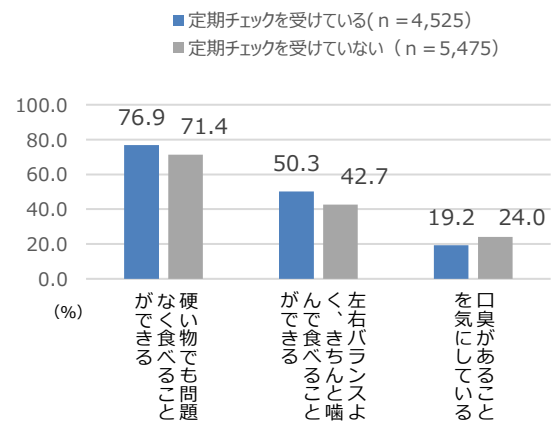
【図8】 この1年間で、歯や口の問題で日常生活に支障を来した経験（全体、n = 10,000）



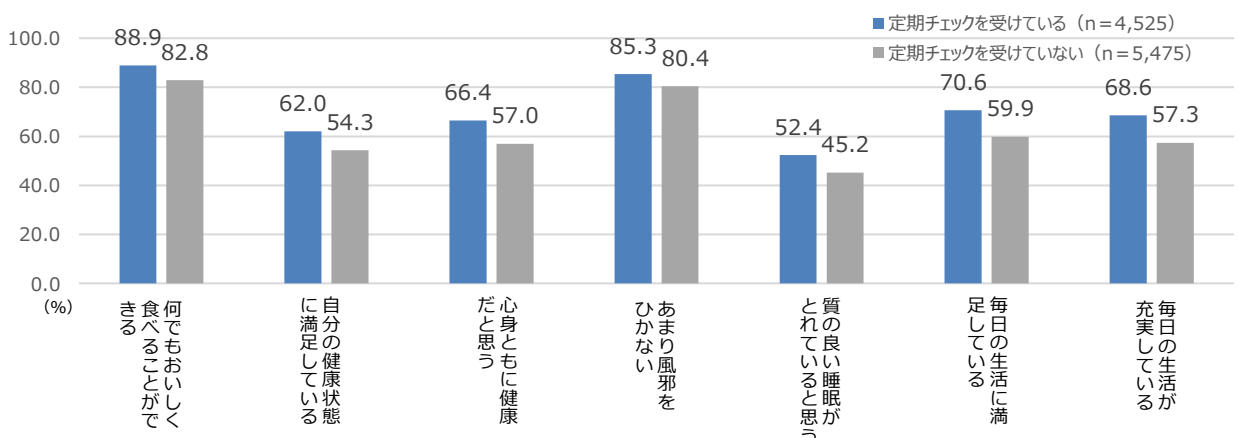
【図9】 もっと早くから、歯の健診（検診）・治療をしておけばよかったと思うか



【図10】 噛むことや歯や口の悩みに対する意識（定期チェックを受けている人・受けていない人）



【図11】 健康意識や生活に対する意識（定期チェックを受けている人・受けていない人）

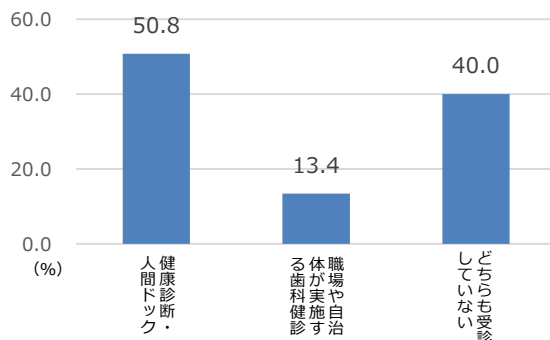


■ 20～70代回答者の2021年度の健康診断・人間ドック受診率は51%。職場や自治体を実施する歯科健診受診率は13%

今回の調査対象者に、昨年（2021年）度の、健康診断・人間ドックや職場や自治体を実施する歯科健診の受診状況を尋ねたところ、20～70代（9,420人）で、健康診断・人間ドックを「受診した」と回答したのは50.8%でした。

一方、職場や自治体を実施する歯科健診について、「受診した」と回答した人は13.4%（20～70代）。健康診断・人間ドックを受診した人の3分の1以下にとどまっています〔図12〕。

〔図12〕 健康診断・人間ドック、職場や自治体の歯科健診受診経験（2021年度）（20～70代、n=9,420）

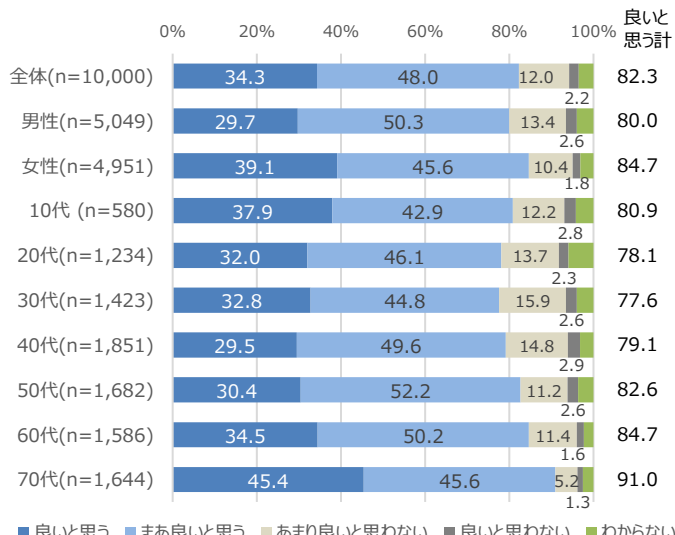


■ 歯科健診の充実に向けた検討は「よいと思う」が82.3%と、肯定的

丈夫な歯を維持することによって心身機能の低下や病気の誘発を防ぐことを目指し、全ての国民を対象として、歯科健診の充実に向けた検討が今後本格化する予定です。

そこで、歯科健診が充実することに対する印象を聞いてみました。「良いと思う」が34.3%、「まあ良いと思う」が48.0%となり、合わせて、82.3%が「良いと思う」と肯定的な意見を持っていました。年代別では、30代が最も低くなっていますが、それでも、77.6%（良いと思う+まあ良いと思う）が肯定的であり、年代・性別を問わず、肯定的に受け止められているようです〔図13〕。

〔図13〕「歯科健診の充実に向けた検討」に対する意見（全体、性別、年代別）



■ 「無料」や「歯科医院や職場・学校」でできれば、健診受診意向が高まるとの意見も

今後、歯科健診の充実に向けて、歯科健診受診意向が高まるとする方策について聞いたところ、「無料であれば」（52.6%）が最も多く、以下、「どこの歯科医療機関でも受診できれば」（35.0%）、「職場や学校などで受診できれば」（29.8%）などの意見が上位を占めました。費用負担が少なく、アクセスしやすいことが歯科健診の受診拡大につながりそうです〔図14〕。

〔図14〕 歯科健診を受ける意向が高まるとする施策とは（全体、n=10,000）

